

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「つながり」「いきいき」「豊かな学び」を標語として、生徒一人ひとりが仲間や社会とつながり、元気に体を育み、主体的な選択をとって未来を描く教育の実現をめざす。そのため、以下の点を重点目標として学校経営に取り組む。

1. つながり: 仲間や地域社会とのつながりの中で、「コミュニケーション力」や「自ら考えて行動する力」を伸ばし、全ての生徒に希望する進路を実現できる力を育む。
2. いきいき: 生徒が、お互いを大切にする人権感覚を育みながら、安全で安心して学べる学校(防犯・防災、安全衛生管理)整備を進める。
3. 豊かな学び: 生徒一人ひとりに応じた支援の充実を図り、豊かな学びや「変化に対応できる力」を伸ばす教員の専門性と指導力の向上に取り組む。
4. 保護者・地域・関係諸機関と連携し、開かれた学校づくりとセンター的機能を発揮する。
5. 学校課題を明確にし、教職員が一体となって改善に取り組む、効果的で機能的な組織づくりを推進する。

2 中期的目標

1. 仲間や地域社会とのつながりの中で、「コミュニケーション力」や「自ら考えて行動する力」を伸ばし、全ての生徒に希望する進路を実現できる力を育む。
 - (1) 中学部・高等部で一貫したキャリア発達を促す学習や、進路に関する教育の充実を図る。
 - ア 中学部・高等部全6学年で、「清掃」をキャリア教育の一環として実施する活動として位置づけ、系統性、継続性をもって取り組む。(四條畷版清掃検定 R4~5; 対象拡大検討・高等部で本格実施 R6; 中高それぞれで本格実施)
 - イ 積極的に社会に参画する意欲を育むために、地域の人材・資源を活用し、校内外での進路学習・体験実習を充実させる。
 - ウ 生徒が希望する進路を実現するため、早期からの体験実習を充実するとともに、卒業生に対する丁寧なアフターケアにより高い定着率をめざす。
 - (2) 学校生活や学校行事の中で生徒が自分の役割を意識して、互いのよさを生かしながら生徒間で協力し、主体的に取り組める活動を充実させる。
 - (3) 地域との連携による校外での活動(地域貢献活動や交流及び共同学習、放課後活動等)の充実を図る。(地域連携活動 R4; 年間スケジュール検討・地域との調整 R5~6; 本格実施)
2. 生徒が、お互いを大切にする人権感覚を育みながら、安全で安心して学べる学校(防犯・防災、安全衛生管理)の体制整備を進める。
 - (1) 生徒一人ひとりの人権を大切にし、人権研修等を通じて教職員の人権意識を高めるとともに、校内の人権意識の高揚を図る。
 - (2) 新型コロナウイルス等の感染症に対し、感染拡大防止の取組みを徹底するとともに、ICTを活用した学習保障の充実を図る。
 - (3) 生徒一人ひとりが、自分の健康や身体・性、障がい特性に関心を持ち、身体の健康の保持増進、精神的な安定が図れるように支援する。
 - (4) 防犯防災マニュアルや大規模災害対応マニュアルの見直しを継続して行い、地域やPTAと協働して防犯防災体制の確立をめざす。
 - (5) 個人情報適切に運用する。
3. 生徒一人ひとりに応じた支援の充実を図り、豊かな学びや「変化に対応できる力」を伸ばす教員の専門性と指導力の向上に取り組む。
 - (1) 「主体的、対話的で深い学び」の視点を取り入れた授業に取り組む、知的障がい教育における専門性の向上を図る。
 - ア 全教員が「主体的、対話的で深い学び」の視点を取り入れた授業に取り組む、授業力や指導力の向上をめざす。
 - イ 初任者へのサポート体制の充実と、経験年数の少ない教員の授業力向上を継続して行う。(教員力向上チーム R4; PT立ち上げ、チーム編成検討 R5~6; 授業力向上チーム本格実施)
 - ウ 校内研修や授業実践の公開、外部人材の活用などを通して、教員の専門性の向上を図る。
 - (2) 各教科領域においてキャリア発達を促す観点から学習内容を見直し、中学部・高等部6年間の系統性、取組みの継続性を図る。(キャリアプランニングマトリクスの活用 R4; シラバスや学習指導案との連動を検討・試作版の見直し R5~6; 本格活用開始)
 - (3) 生徒が「知る」「考える」「表現する」「広げる」等の活動においてICT機器をよりよく活用できるよう、ICTの指導実践を充実させる。
 - (4) 生徒の想像力を豊かにし、表現力を高める図書環境の整備を継続する。
4. 保護者・地域・関係諸機関と連携し、開かれた学校づくりとセンター的機能を発揮する。
 - (1) コーディネーターを中心とする、チームによる校内支援及び地域支援(センター的機能)を充実させる。
 - (2) ホームページによるタイムリーで有用な学校情報の発信を行うとともに、魅力あるコンテンツを掲載するなど内容の充実を図る。
5. 効果的で機能的な学校組織づくり
 - (1) 学校組織の見える化を図り、教職員が一体となった効果的で機能的な組織づくりを推進する。
 - (2) 教職員がゆとりをもって生徒の指導・支援に注力できるよう、働きやすい職場環境づくりを推進する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析[令和4年11月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【保護者アンケートから】(回収率 70% [R3:74%, R2:72%]) 次年度からフォーム作成ツールを活用することにより回収率向上をめざす。</p> <p>●24項目中17項目で昨年度より肯定的評価が上昇。肯定評価中「よくあてはまる」が6ポイント以上上昇した項目も13項目ある。肯定的評価が9割以上だったのは4項目のみ。(R3:3項目)</p> <p>●「相談への対応」は86.6%(4.3p▼)。否定評価は5.1%(R3:7.4%)だが、「わからない」が7.4%(R3:0%)。同じく肯定評価下落の「教育方針を伝えている」(84.5% 3.9p▼)、「個人情報適切に扱っている」(89.9% 2.7p▼)についてもわからない回答が増え(3.3%→9.6%、4.1%→8.1%)、学校との距離を感じている保護者が一定いる数字と認識する必要がある。</p> <p>○一方で、「学校は授業参観する機会を設けている」は90.3%(86.7% 3.6p△)、「学校行事は子どもが参加しやすいよう工夫されている」は93.3%(85.1% 8.2p△)で、ともに「よくあてはまる」は11p、7.8p 上昇。コロナ禍でも授業や学校行事へは参加しやすくなったと感じていただいている数値となった。</p> <p>●「ニーズに応じた体力づくりをしている」は83%で2年連続下落(1.3p▼)。コロナ禍の3年間で体力が落ちているとの印象につながっているものと思われる。「タブレット・ICTの効果的活用」は53.4%(3.6p▼)。タブレットを家庭に持ち帰るの活用がなく、学習場面で活用されているかがわからないことによる数字と考えられる。「わからない」「未記入」が37.8%で24項目中最大</p> <p>●最も評価が下落したのは「HPの情報は役立っている」で56.3%(8.2%▼)「学習の様子を即時アップ」「配付プリントを電子データ」との要望が出ており、対応が可能なことについて検討していく必要がある。</p> <p>【教職員アンケートから】(回収率 98% [R3:95%, R2:96%])</p> <p>●「准校長のリーダーシップ」78.5%(4p▼)、「学校運営への意見反映」73.1%(3.2p▼)、「学校運営に関する意見や提案」64.5%(8p▼)、「仕事のやりがい」81.7%(2.1p▼)という結果から、積極的な学校運営への参画や抜本的な業務改善が進んでいないと感じている層がいることの現れと考える。</p> <p>○「専門性向上」87.1%(8.3p△)、「授業づくり・授業改善」93.5%(8.5p△)「初任者等への授業づくり支援」68.8%(15p△)は、専門性・授業力向上の取組みが、「進路選択の情報提供」93.5%(4.7p△)、「進路指導の充実」80.6%(3.1p△)はキャリア教育の取組みが、「人権を尊重した教育活動」98.9%(よくあてはまる 71%)は人権研修の取組みによるものと考えられる。</p> <p>○「タブレット・ICT活用」は76.3%(5p△)で、「学校からの情報発信」は78.5%(7.8p▼)。ICT機器活用は進んでいるが、家庭へのアピール不足が保護者評価につながっている。HPの有効活用など情報発信が依然課題である。</p>	<p>○ 第1回学校運営協議会(令和4年5月23日開催)</p> <p>【学校から】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「令和4年度学校経営計画及び学校評価」及び学校経営計画に基づく令和4年度の重点取組みの概要について ・授業見学(高等部職業科目【園芸・縫製・窯業】)等 <p>【委員から】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見学した授業内での視覚支援に差が見られた。板書も含めた授業力の向上に期待したい。 ・略案であっても、本時の目標にはその時間でどんな力をつけたいかが明記されているべき。授業力向上チームを中心にアドバイスできる体制をつくってほしい。 ・清掃検定は公認の検定であれば、より意欲につながると思う。 ・公民館での野菜販売は、生徒が四條畷市広報の取材に応じる様子や地域の人と一緒に準備・片付けをする様子を見ることができ、学校内の学習では感じられない成長を感じた。 <p>○ 第2回学校運営協議会(令和4年11月8日開催)</p> <p>【学校から】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「コロナに係る対応」「令和4年度学校経営計画及び学校評価の進捗状況」及び「学校教育自己診断アンケート」について、それぞれ報告。 ・授業見学(初任者授業【中/国語・高1/音楽・高2/職業(清掃・喫茶)]) <p>【委員から】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等部職業の授業で、PTA行事とコラボして、生徒が保護者に清掃技術を教える取組みは、生徒自身が理解を深める意味でもよい取組み。野菜販売や清掃等地域で活動する取組みは、地域の方の障がい理解も進むので今後もしっかりとやってもらいたい。 ・(授業見学を受けて)その場で動画を撮影し、即時確認するなどタブレットをうまく活用している。視覚支援という点でICT機器は有効なので進めてほしい。その一方でICTに頼るだけでなく、手作り教材等個に応じた支援の工夫がいかに出せるかが大切である。 ・買い物や選挙への参加など、学校の活動だけでは不十分で、家庭と連携する必要がある。授業での取組み内容を家庭でもやってもらうようお知らせする連携があってもよい。 <p>○ 第3回学校運営協議会(令和5年2月27日開催)</p> <p>【学校から】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校教育自己診断アンケート」の結果分析、「学校経営計画及び学校評価」の令和4年度評価(案)と令和5年度計画(案)の内容について、それぞれ説明。承認いただいた。 <p>【委員から】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の取組みについては、数値目標等も職業教育寄りに感じる。支援度の高い生徒のキャリア発達の視点を計画に組み入れていくことが今後ますます問われてくる。 ・教員の専門性向上で掲げる3つの力は指導側目線で書かれているが、キャリア教育の柱でもあり、生徒にいかにして力をつけるかという捉えが必要である。 ・情報発信は、即時性が必要。授業などの写真と取組み内容があって、普段の様子がわかりやすいものを。知りたい時にすぐに知れるものであるようにしていく必要あり。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度値]	自己評価
「コミュニケーション力」や「自ら考えて行動する力」を伸ばす	<p>(1) キャリア発達を促す学習の充実 ア 系統性のある清掃活動の取組み イ 地域人材・資源の活用 ウ 早期からの実習及び進路先への定着</p> <p>(2) 学校生活や学校行事の中で、生徒が協力しながら主体的に取り組む活動の充実</p> <p>(3) 地域との連携による校外での活動の充実</p>	<p>(1) ア 清掃活動をキャリア発達の視点で見直し、中高で系統性のある一貫した指導を進める。 イ 「環境整備」「農園芸」「ビジネスマナー」における学習に地域の人材を活用し、指導を充実させる ウ 高1からの体験実習を充実させる。進路先等への定着支援としてアフターケアを充実させる。</p> <p>(2) ア 「きょうだい学年」の取組みで異学年間の生徒同士が教え合う活動を充実させる。 イ 生徒会活動を中心に、生徒が主体となって取り組む活動を活性化させる。</p> <p>(3) ア 地域連携活動(清掃、野菜販売)を定例化させるとともに新たな連携を創出する。 イ 生徒の行き来を伴う学校間交流を継続する。</p>	<p>(1) ア クリーンコース以外の生徒の清掃検定挑戦者5人以上/年。 [4人 *R3はクリーンコース生のみ] イ 職業科目等での外部講師による授業 15 回以上(リモート授業含む)[12 回] ウ 各学年で体験実習の対象生徒を前年度より広げる。 [高1: 5人、高2:15 人] R3卒業生の離職者0人(離職しても再雇用につなげる) 「社会参加に向けた取組み」の保評価 80%以上[78.5%]</p> <p>(2) ア 「きょうだい学年」の取組み、各ペアで年2回以上の取組み実施。(実績評価)[各ペア1回] イ 生徒会主導の新たな取組みを前期1つ、後期1つ創出する。(実績評価)</p> <p>(3) ア 近隣小、神社、公民館等での清掃、販売学習を年間スケジュール作成のもと、実施する。計 10 回以上[6回] イ 演奏交流以外の生徒同士の交流2回以上[1回]</p>	<p>(1) ア 清掃検定:職業コース生徒7人全員が受検済。3学期中に「清掃・喫茶」生徒4人が受検済。(○) イ 剪定6回、農園芸2回、ビジネスマナー4回実施(計 12 回実施)。外部講師の都合により目標回数に達せず。初めて府庁実習(剪定)に生徒3人が参加し、日頃の学習成果を校外で試す機会を得ることができた。(△) ウ 高1: 8人、高2:7人、高3:13 人が企業(職場)体験実習を経験。高3ではその内 10 人が一般就労。(R2・R3は1人)卒業生離職者なし。(○)</p> <p>(2) ア 各ペアで1回ずつの取組み、内容はレクリエーションで教え合う活動には至らなかった。(△) イ 前期は昼の放送(生徒会でリクエスト集計)、後期はあいさつ運動、教員インタビューを実施。(○)</p> <p>(3) ア 清掃(近隣小4回、神社2回、公民館3回)販売学習4回実施(計 13 回)。清掃・野菜販売をより定例化して定着。(○) イ 前期は演奏交流会後、各 HR での交流及び生徒会による近隣高校へのお礼訪問を実施。後期は同校陸上部の練習に生徒2人が参加する交流を2回実施。(○)</p>
2 安全安心のための校内体制の構築	<p>(1) 人権意識の向上</p> <p>(2) 感染症対策の徹底 ICT 活用による学習保障</p> <p>(3) 自身の健康や身体・性・障がい特性への関心及び心身の健康の保持増進</p> <p>(4) 危機管理意識の向上 防災体制の確立</p> <p>(5) 個人情報の適切な運用</p>	<p>(1) 人権研修の実施及び人権感覚に関する日ごろからの理解啓発に努める。</p> <p>(2) ガイドラインに遵守した教育活動を継続させる。臨時休業時等に生徒の状況やニーズに応じ、ICTを活用した活動保障を行う。</p> <p>(3) ア 食物アレルギーや性・障がい特性に係る研修を行う。 イ 心と身体の学習(性に関する指導)の充実を図る。</p> <p>(4) ア 防犯や防災に対する見直しを引き続き行う イ 教職員訓練、生徒訓練等を通じて危機管理意識を向上させる。</p> <p>(5) 情報セキュリティポリシーを遵守し、個人情報の適切な取り扱いに努め、見直しを継続する。</p>	<p>(1) ・悉皆の校内人権研修を2回実施する。[2回] ・「教員の人権尊重する姿勢」の保評価 90%以上[86.8%]</p> <p>(2) ・2日以上臨時休業毎に、ニーズに応じて ICT 活用の活動保障をする。 ・「安心して学校生活送れる」の保評価 90%以上[87.6%]</p> <p>(3) ア 生徒の心身の健康に関わる研修を2回行う(実績) イ 心と身体の学習を全ての学年で6時間以上行う。 ・「ニーズに応じた健康支援」の保評価 90%以上[84.2%]</p> <p>(4) ア 防犯防災マニュアル、食料等備蓄品の点検・見直しを8月末までに行う。 イ 防犯や防災(火災・地震)に関する訓練を、年2回行う。</p> <p>(5) ・管理職・首席の学期に2回程度のダブルチェック実施 状況確認により個人情報の誤配付・漏洩事案「0」にする。 ・「個人情報の適切な取扱」の保評価 90%以上[92.5%]</p>	<p>(1) ・「子どもの人権と学校における課題」(4/19)、「困りごとのある子どもの理解と支援」(12/22)実施。保護者評価 88.9%だが、A 評価が 63.0%(7.6p△) 否定評価が 3.7%(R3:5.0%)と評価改善が見られる。(○)</p> <p>(2) ・臨時休業対応での活用はなかったが、不登校生徒にリモート会議システムを利用した取組みを行った。(中:2回、高:6回)保護者評価 88.1%(△)</p> <p>(3) ア 4/6「エビベン講習(全体)」6/14「エビベン講習(個別事例)」7/29「心の相談の事例から学ぶ」実施(○) イ 高3は7時間だが、他学年は3時間に留まる。保護者評価 83.0%(1.2p▼)(△)</p> <p>(4) ア 5月に大おかずが提供されない不測事態でアレルギーフリー備蓄食(カレー)にて対応。本事業を受けてアレルギーフリー備蓄食を新たに7月に購入(○) イ 防災訓練(5/6、9/2実施)防犯訓練(生徒向け6/13、教員向け7/25 実施)、Jアラート訓練(2/9実施)(○)</p> <p>(5) ・保護者評価 89.9%。学期に2回程度の見回り実施。年度当初に連絡帳入れ間違い事案あり。(△)</p>

3 教員の専門性の向上と指導力の向上	<p>(1) 授業力・専門性の向上 ア 授業改善や指導力の向上 イ 授業力向上等、初任者等へのサポート体制の充実 ウ 授業公開、外部人材の活用</p> <p>(2) キャリアプランニングマトリクスの活用</p> <p>(3) ICT 機器を活用した教育実践の充実</p> <p>(4) 図書環境の整備</p>	<p>(1) ア・イ ・授業力向上チームによる授業見学、授業検証を通じ「主体的、対話的で深い学び」の視点を取り入れた授業実践を広げる。 ・初任者やインターミディ、アドバンス等研修対象者の研究授業において授業力向上チームによる研究協議を行い、専門性向上を図る。 ウ 地域の教員への授業公開、HP への授業実践紹介を通じ、協議の場を学校以外にも広げる。外部人材の活用は1-(1)-イに同じ。</p> <p>(2) ・試作版の10の力のうち最低でも1つを検証例とし、I 段階、II 段階、III 段階の授業を抽出し、教科領域のキャリア発達視点での系統性を検証する。</p> <p>(3) ・「知る」「考える」「表現する」「広げる」等の活動において ICT 機器を活用した教育実践を充実させる。</p> <p>(4) 生徒が気軽に図書を楽しめる環境を整備する。</p>	<p>(1) ア・イ ・1学期中にPT を立ち上げ、チームを編成する。 ・初任者研修等で学習指導案を作成する授業は必ず、それ以外の授業は年間15 授業をチームで授業見学し、その授業について研究協議を行う。 ・「初任者等への支援」の教員評価 65%以上[53.9%]</p> <p>ウ ・地域の教員等への授業公開2回(うち、1事例はICT 活用の授業とする)、HP への授業実践紹介5回(うち、2事例はICT 活用の授業とする)。 外部人材の評価指標は1-(1)-イに同じ。</p> <p>(2) ・3-(1)-アイの授業見学・研究協議において、キャリアプランニングマトリクス試作版の検証を兼ねた授業を3事例行う。(I ~III 段階の事例となるように)</p> <p>(3) ・3-(1)-アイの授業見学・研究協議において、ICT 活用を兼ねた授業を3事例行う。(生徒の「知る」「考える」「表現する」「広げる」活動のための活用実践に限る)</p> <p>(4) ・移動図書ラックを活用した読書啓発活動を年2回行う。</p>	<p>(1) ア・イ ・PT による研究授業・研究協議(6/20、7/8)実施。3学期にも2本研究授業を実施予定。PT 主催の授業力向上研修(7/28)実施。初任者研究授業7本は研究協議も PT メンバー中心に進めて内容が充実された。教員評価 68.8%。研究授業以外の授業見学を PT で実施できなかった。次年度以降も PT 継続して、授業検証を充実させる。(○)</p> <p>ウ ・PT メンバーによる研究授業を地域の教員へ公開予定(2/21)。HP への授業実践紹介は、PT 中心に様式を検討し、年度末に5編掲載した。(△)</p> <p>(2) ・キャリアプランニングマトリクスの観点を入れた研究授業・研究協議を実施(6/20)したが、マトリクスの系統性検証となるまでに事例を深めることができなかった。(△)</p> <p>(3) ・初任者3人が、生徒同士が自分のプレーを振り返る、作戦を立てるにあたって、動画撮影・確認のためにタブレットを利用する研究授業を行った。2/21 PT メンバーにより地域教員対象に公開研究授業を実施。(○)</p> <p>(4) ・移動図書館の取組み:5/16~7/8、1/16~3/10 ・読書週間の取組み:10/11~14 読書週間において、芸術鑑賞会・萬狂言の事前学習として、「附子」「かたつむり」の読み聞かせを行った。(○)</p>
4 開かれた学校づくり センター的機能の発揮	<p>(1) 校内支援体制と地域支援(センター的機能)の充実</p> <p>(2) 学校情報の発信の充実</p>	<p>(1) ア リーディングスタッフ・校内コーディネーターを中心にした校内支援体制(ケース会議等関係機関との連携など)の維持と、訪問相談や講師派遣によるセンター的機能の充実。 イ 地域の学校や関係機関に対して授業公開、公開研修会を行う。</p> <p>(2) ホームページ等でタイムリーな学校情報を、地域や保護者に発信する。</p>	<p>(1) ア・関係市教育委員会との地域支援に係る関係強化を図るための新たな取組みを2事例以上実施する。 ・校内コーディネーターによるケース会議の運営を継続 イ・地域の学校や関係機関等を対象とした公開研修会を2回、授業公開を2回行う。</p> <p>(2) ・授業実践や教材を紹介するコーナーを HP 上で立ち上げ、授業実践紹介を5編、教材紹介を5編掲載する ・「HP 情報は役立っている」の保評価 70%以上[64.4%]</p>	<p>(1) ア・市教委と連携し、地域の中学校での事例検討会を実施。(8/25)地域の支援学級担当学会議への参加及び支援学級担当向け研修実施(9/8)(○) イ・7/29 実施の研修、12/22 実施予定の研修を公開研修会とした。授業公開は2/21 に1回実施。(△)</p> <p>(2) ・HP 上に授業実践紹介を5編にアップ。保護者評価は 56.3%と大きく下落。学校からのおたよりや文書等が HP 上で確認できるよう改修を進める必要がある。(△)</p>
5 学校組織づくり	<p>(1) 効果的で機能的な学校運営組織</p> <p>(2) ゆとりある生徒指導・生徒支援のための職場環境づくり</p>	<p>(1) 企画会議と学校経営会議、主任会議等を連動させ、課題に対する具体的な取組み案を立案できる体制を強化する。 課題解決型のプロジェクトチーム会議設置により、短期間集中で具体案を立案できるようにする。</p> <p>(2) 会議出席者の精選、複数会議・委員会の同時開催、会議設定時間の見直し等により放課後時間にゆとりを生む。 外部人材を有効に活用し、教員業務の負担軽減を図る。</p>	<p>(1) ・「管理職は学校運営への教員の意見を反映している」教員評価 80%以上[76.4%] ・「学校運営に関する意見・提案をしたことがある」教員評価 75%[72.4%]</p> <p>(2) ・「仕事分担がなされ、意欲的・協力的に取り組める」教員評価 75%以上[69.8%] ・「仕事全般に対してやりがいを感じる」教員評価 85%以上[82.9%] ・「生徒対応・授業作りについて話ができる雰囲気がある」教員評価 75%[67.1%] ・週1の定時退勤日の徹底、放課後会議なし日を月3回以上つくる。在校時間 80 時間/月超え教職員「0」にする。 [1人]</p>	<p>(1) ・コロナ対抗において、学校経営会議、各種委員会を連動させ、府教委通知を受けての検討や、学習活動・行事のあり方について、迅速に方向性を決定。キャリア PT、授業力向上 PT とも PT 企画での研修を実施。情報部 PT 企画で職員朝礼での報告事項を学習支援クラウドサービスを使って共有する方式に変更。生徒欠席連絡をフォーム作成ツールを活用する方式に変更予定。(R5年度1学期中に試行予定)評価指標だった教員評価はそれぞれ、「意見反映」73.1%、「学校運営への提案」64.5%と前年度から大きく後退。教務負担が一部の教員へ偏っている表われと思われる。(△)</p> <p>(2) ・評価指標だった教員評価はそれぞれ、「仕事分担」73.1%、「やりがい」81.7%、「授業づくりの話」75.3%。在校等時間 80 時間超え教職員「0」であるが、ストレスチェックでは、業務量が多いと感じる指標が府立全体平均より高く、よりゆとりある職場環境づくりは課題。(△)</p>